

94 B 33  
(133 B 11)  
(133 A 335)

特許庁  
実用新案公報

実用新案出願公告  
昭35-31876

公告 昭35.11.30 出願 昭34.4.8 実願 昭34-20402

出願人 考案者 畠田昭雄 大阪市東住吉区西鶴合町2の48  
同 松村博 大阪市東区徳井町1の18  
代理人 弁理士 宇津呂義雄

(全2頁)

点眼瓶

図面の略解

図面は本案点眼瓶の説明図にして、その第1図は本案点眼瓶の縦断正面図、第2図は注出口に装架せるパツキングに弁のみ貼着せる場合の縦断正面図、第3図は第2図のA-B横断面図、第4図はパツキングの斜視図を示す。

実用新案の説明

本案点眼瓶は薬液を収容する瓶体を半透明のプラスチック材で作った本体1の瓶口2を可及的に広く形成して、瓶頸部3の外周には凸蝶子4を添設すると共に、瓶口2内には瓶口2より狭隘に通孔5を穿ち該通孔5の中央一部分に凹陷部6を設け、且つ頂部の外周に止座7を形成したるパツキングを嵌着し、パツキングの頂端面8には四隅がキヤツブ17の内面押座13の内側壁に接触する大きさの角形の弁9を貼着し、その上面に内面押座13と同大円形のスポンジ10及びスポンジ10と同形の細菌滤過膜11を順次重積したる上、内側面には凹蝶線12及び数条の細溝14を設けたる内面押座13を形成すると共に、注出管15の突端には杯状の液規制部16のあるキヤツブ17を螺着し、注出管15にはカバー18を被せたる構造を新規とするものであつて、図面に於て符号18はスポンジ球を示す、尚本案に使用する細菌滤過膜は従来より一般公知のものを使用しこれには多数の細孔があつて薬液の表面張力により瓶内が陰圧になつても外気を瓶内に通過させることなく、従つて瓶内は外気と完全に遮断され得るもので空気中の細菌又は塵埃によつて汚染されることがないものである。

本案は上記の如き構造なるを以てパツキングの止座7は上面Aと下面Bで本体1の内外を完全に遮断し得、その上瓶頸部3はキヤツブ17の凹蝶線12により締付けられ密着閉止し、瓶内の薬液は本体1の外圧に会つてもパツキングの通孔5以外には注出しないで専ら薬液は弁9に向うものであつて、この場合弁9は外側面のスポンジ10を圧縮させ下パツキング頂端面8と弁9の間を逆つて、スポンジ10並に細菌滤過膜11を通過して注出管15

内に注出することになる。本案にスポンジ10を用いたのは絶えず角形弁9をパツキングの頂端面に弾力を保持して圧して且細菌滤過膜をも内面押座13にも圧接してこれ等の間隙を大きくせざるように密着せるものにして又弁9を角形にしキヤツブ17の内面円形との間に弁のない部分を設けたのは弁9とパツキングの頂端面8の間から流れ出た液をスポンジ10に送るようにしたのであつて管15内に注出した薬液の一小部分は液規制部16にて一定量が1個の水玉となり後一滴一滴が断落滴下することが出来るようにした、この時一度弁9を押してパツキングの外部に出た薬液は再び瓶内に逆入することは不可能となる、この逆入をしようとする時に必ず注出管15内の液は細菌滤過膜11スポンジ10等をパツキングの頂端部8に向つて圧接させて、弁9はパツキングの通孔5を閉止するものにして、この場合液はキヤツブのA点からは流出しない作用も持つて居て、従来の瓶の如く瓶頸部を汚さない効果がある、瓶の本体1内は細菌や異物によつて汚損されないので常に一定量の水玉を目につき下させる作用が可能である。

本案は薬液の性質上前記の如くスポンジ並に細菌滤過膜等を通過させて滤過する必要のない場合或いは細菌滤過膜では通過困難なる薬液等に使用する場合には、スポンジ10及細菌滤過膜11を取除き通孔5の凹陷部にスポンジ球18を嵌めることとパツキングの頂端面8の角形の弁9のみで第2図図示の如くにして使用すれば簡易且有効に使用出来るものであつて、この場合は瓶の本体1に外圧を加えることによりて瓶内の薬液はスポンジ球18を通過して通孔5に至り、スポンジ球18は粘性液油性液等の場合もよく滤過効果を表わし且つ液内の異物は良くここで止めて薬液のみ通過せるものであつて弁9を頂端面8から引離して頂端面8と弁9との間を注出し、仮に弁9が内面押座13に密着しても細溝14を通過して液規制部16に至り滴下するものであつて、一度通孔5から外に流出したものは再び逆流しようとしても此の場合注出管

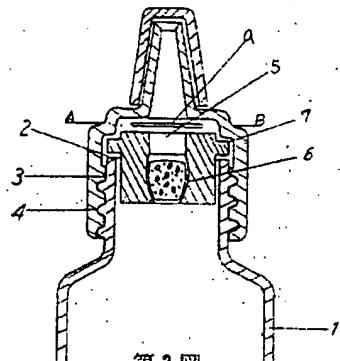
15内の液は弁9を頂端面8に押し付けて通孔5を閉止して、瓶本体1内に逆入するを防止し、薬液の細菌や塵埃による汚染を防止し得る簡略方法も用い得る。

又本案注出口は瓶口2に非常に大きく形成しこれに狭隘なる通孔を有するパツキングを使用してあるので、パツキングを外すことによりて瓶内を刷子にて洗滌を容易にし瓶口2が広い大きな形状であるに係らずパツキングの通孔は狭隘なため瓶内の薬液の注出量は適量に制限出来て瓶口の小さなものと同じにし、瓶を再三回収再使用に便にし、キャップ17にはパツキングに対して密閉作用を有する上下のA、B部を有する止座7を設け又瓶頸部との間には締付力あるC部を設けて薬液が瓶頸部3を汚損しない様にし薬液の蒸発を防ぎ得て安価に衛生的な容器として有効にした。

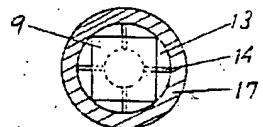
## 登録請求の範囲

図面に示す如く瓶の本体1の瓶口2を可及的に広く形成して、瓶頸部3の外周には凸螺子4を添設すると共に、瓶口2内には瓶口2より狭隘に通孔5を穿ち該通孔5の中間一部分に凹陥部6を設けてスポンジ球10を嵌め込み、外周に止座7を形成したるパツキングを嵌着し、パツキングの頂端面8には四隅がキャップ17の内面押座の内側壁13の内側壁に接触する大きさの角形の弁9を貼着し、その上へスポンジ10細菌遮過膜11を順次重積したる上から、内面には凹螺旋線12及び数条の細溝14を設けたる内面押座13を形成し且注出管15の突端には杯状の液規制部16のあるキャップ17を螺着し注出管15にはカバー18を被せて成る点眼瓶の構造。

第2図



第3図



第4図

